

# 市議会だより

令和6年5月号

〒583-8585 羽曳野市誉田 4-1-1  
羽曳野市議会事務局 Tel. 072-958-1111  
羽曳野市ウェブサイトからもご覧いただけます。

- 1 第1回定例会  
ライブ中継について  
編集委員会より  
2～6 各会派代表質疑

## 令和6年第1回定例会報告

### 「市長の施政方針に対する各会派代表質疑」

#### 第1回定例会

令和6年第1回定例会は2月26日から3月28日までの32日間の会期で開催されました。今定例会では、令和6年度施政方針に対する会派による代表質疑、8名の議員による一般質問が行われました。

また、専決処分の報告1件と、条例の一部改正、令和5年度一般会計・各特別会計・水道事業会計・下水道事業会計の補正予算及び令和6年度当初予算、議員提出議案など47件の議案、その他、意見書案1件「若者のオーバードーズ（薬物の過剰摂取）防止対策の強化を求める意見書」が上程され審議が行われました。今月号では代表質疑の内容を中心に報告し、一般質問、各常任委員会の審査報告、審議された案件の議決結果等は6月号に掲載いたします。

#### ●本会議のライブ中継について

市民の皆さまに市議会を身近に感じていただくため、本会議の様子をリアルタイムでご視聴いただけるライブ中継（生中継）を令和3年第1回定例会の最終日より開始いたしました。

また、これまでの録画中継も市ウェブサイトより引き続きご覧いただけますので、ぜひご視聴ください。

#### ◆編集委員会より◆

令和6年第1回定例会が、3月28日に閉会しました。本定例会では、市長の施政方針に対する各会派からの代表質疑を行い、次に上程された市民の暮らしに大きく関わる一般会計予算をはじめとする新年度各種予算案などが、本議会や各常任委員会において議論されました。円安や国際紛争を背景とした諸物価の値上がりや、日本銀行のマイナス金利政策解除によるデフレからの脱却と今後の各種金利の上昇が市民の暮らしに与える影響など、社会環境が大きく変化する中、身近な場所ですべての市民の暮らしを支える立場にある羽曳野市の様な基礎自治体の役割はより重要度を増すものとして、皆さまから選んでいただいた私たち市議会議員は、市民の声の代弁者として市政に向けて議会を通じて、その重要な役割を遂行すべく努力致しております。本市議会だよりでは紙面の都合上、定例会における議事内容のご一部しか掲載することができません。羽曳野市議会では市民に開かれた議会を指向しており、議場の傍聴以外にも多くの情報をお知りになりたい場合は、市ウェブサイト上の市議会のリンク先で本会議のライブ中継、録画映像や会議録の閲覧等の方法で、本会議、各種常任委員会での各議員の発言をご確認いただける体制を整えておりますので、ご視聴、ご活用いただければ幸いです。本議会だよりにおきましてこれからもわかりやすく、議会を身近に感じていただけるような紙面づくりを目指して参ります。ご意見等ございましたら各議員や議会事務局にぜひお寄せください。

#### 《市議会だより編集委員》

田仲 基一 竹本 真琴  
外園 康裕 百谷 孝浩  
南 玲 黒川 実  
金銅 宏親

## 笹井喜世子（日本共産党）



## 《はじめに》より》

●**質疑** 様々な施策や事業の取組の中で、どのように丁寧な市民の声を聞き反映されてきたのか。

●**市長** 広く市民の要望を直接伺い、様々な手法で施策や事業の企画立案に反映させている。

●**要望** 施策づくりは、市民や職員、有識者の意見を十分反映させ議論して丁寧に進める仕組み作りを要望。

《安全・安心でいきいきとした

## 生活の実現》より》

●**質疑** 防災・減災の取組での官民連携の現状と今後の危機管理体制の構築のあり方は。

●**市長** 地域の自主防災組織への補助、物資や人員の災害時応援協定を自治体や関係機関、民間事業者と締結し、職員の災害対応力を向上に努めてきた。

●**要望** 能登地震の教訓を生かし、市の防災担当者の専門性を磨き、地域との信頼や連携がとれる連続した体制づくりと職員の確保を要望。

●**質疑** 住民の足の確保について当市では公共交通施策を担当する部署がない。公共交通を担当する部署と市と市民が話し合える地域公共交通会議の設置を早急につくるべきだが考えは。

●**市長** 交通施策に特化した専属の部署の設置は、社会経済情勢の変化や多様化する市民ニーズに応じて対応が

必要。今後適切な時期に検討を行う。

●**要望** 住民の人権保障としての交通権の視点からも、早急に専属の部署と地域公共交通会議の設置を要望。

●**質疑** 国民健康保険は令和6年度から府内統一化により、また介護保険は第9期で基金を全額取り崩さないことにより、どちらも保険料が値上げとなり生活を圧迫しているが、制度の課題や今後の見直しへの考えは。

●**市長** 安定した運営を行っていくため、引き続き国・府と連携を図りながら市民を守る施策を実施していく。

●**要望** 国・府の制度がさらに市民を苦しめる制度になりつつあることの認識を持ち、自治体の長として市民の命と健康を守る立場に立つことを要望。

《子どもの笑顔あふれる  
次世代育成》より》

●**質疑** 教師の多忙化や長時間労働は大きな課題の中、教員不足への認識と取組、働き方改革への取組は。

●**市長** 教員不足は大きな問題と認識しているが、定数は国の制度で定数増に向けて国に要望していく。保護者との連絡ツール「テトル」の導入など教育委員会において改革施策を進めている。

●**要望** 国に向け必要な財政措置を求めるとともに、市独自の教員増を目指し子どもたちの学ぶ権利を保障する立場で取り組むことを強く要望。

●**質疑** 全国の自治体で学校給食費の無償化が広がっている。コロナ禍の中、給食が健やかな成長を保障することを認識した上での、給食費無償化の見解は。

●**市長** 子どもたちの健全な成長を支援するため、給食センターの整備事業をはじめ、市が重点的な配分を必要とする事業を推進し、引き続き検討していく。

●**要望** 無償化に財源は必要だが小・中学校の給食費の無償化は市予算全体の約1%でできる。憲法に義務教育は無償と定められている中、まずこれまでの値上げ分を公費負担し、給食費の無償化の実現に踏み出すよう強く要望。

●**質疑** 当市ではこども園は第3園まで公立でのこども園整備を進めてきたが、第4園は民間園への方向転換を打ち出したが、その理由と公立園の役割をどのように考えているのか。

●**市長** 多様化する保育ニーズに対応するため公立園で培われてきた保育に、民間のノウハウや手法を取り入れることでより柔軟で質の高い保育サービスや保育環境の整備を目指していく。

●**要望** 公立園で培われている保育は民間のノウハウや手法を取り入れずとも新たな公的サービスを拡充し提供できる。こども園はこれまで通り公立園として運営することや子育て支援に公的な役割を果たすことを強く要望。

●**質疑** 令和5年度から教育改革審議会ですchool規模の適正化について審議されているが、審議委員の構成とどのような議論がすすめられているのか。

●**市長** 審議委員構成は学識経験者5名、学校長2名、保護者2名の計9名。児童・生徒数の減少の課題に対し、まちづくりの視点も入れ、規模や配置の適正化に関して審議、議論されている。

●**要望** 小・中学校の統廃合に向けているが、子どもが少なくなれば少人数学級が実現して一人ひとりに丁寧な学びが保障される。地域の活性化やまちづくりの重要な問題であり、保護者を地域住民の多くの意見を聞き議論する場を設けて取り組むよう要望する。

《未来につなぐ選ばれる  
羽曳野の未来創生》より》

●**質疑** 万博は世論調査でも万博不要が7割近い中①万博への市長の考えは。②市の無料招待の取り組み内容は。

●**市長** ①大阪はびきの観光局と連携しプロモーション活動などをしていく。②令和7年4月1日時点で4歳以上17歳以下の子どもの対象に各家庭からの申請に基づき無料のチケットを交付する。

●**要望** 万博や関連事業に巨額な税金が使われることに大きな批判が上がっている中、自治体の長として市民の声に応え万博中止の声を上げるよう強く求める。子どもたちはチケット交付でなく、すべての子どもたちに行き渡る教育予算をつけることを強く要望。

●**質疑** 新庁舎整備は12月では136億円の総事業費が、1月には100億円に変更された。短期間での変更はまだ構想の検討が不十分という事ではないか。十分な検討や議論の場と市民に財政見通しや事業内容をしっかりと示して理解を求めてすすめるべきだが考えは。

●**市長** 新庁舎整備は来年度より具体的な要求を取りまとめた基本設計を進めていく予定である。今後は基本設計がまとまった段階で市民に事業の概要や事業内容を説明する場を設け、理解と協力を求めていく。

●**要望** 新庁舎づくりは市民の声を聞きオープンな議論を進めるといことを求めてきたが工事費もいまだ不透明で財源内訳も示されていない。基本計画は市民が意見を言える場を設け財源も示して理解を得て進めることを要望。

## 田仲基一

(自由民主党・もつと羽曳野議員団)



## 《はじめに》より》

●**質疑** 広域自治体と基礎自治体の役割の違いをどう認識しているか。

●**市長** 広域自治体は基礎自治体では非効率となる広域的・専門的ニーズを担い、基礎自治体である市町村は、住民生活に密接に関わる行政サービスを総合的に担うものと認識している。

●**要望** 基礎自治体の長所と考える住民協働、相互理解による行政運営という点で以前より後退し、結果、市民と行政の間に不信を生んでいるのではないか。大阪府職員の退職者を複数高額の給与で採用、大阪府の地方債を購入、万博のチケット購入費用として早々に市税3276万円の債務負担を計上するなど現市長就任以来、市民よりも大阪府の評価を期待する予算執行、市政運営に傾いているのではないか。

●**質疑** 地域特性を踏まえた行政の継続性についてどう考えるか。

●**市長** 各地域の特性も踏まえながら、安心して住み続けられる羽曳野の未来創生を進めたいと考える。

●**要望** 西浦幼稚園廃園問題において、地元自治体に相談なく、一方的に市が廃園決定を下したことの怒りの背景には、教育環境のために土地を提供したにもかかわらず、一方的に閉鎖を決定したことに対する憤りがあつたと聞く。議会にも相談はなかった。市長がいうスピード感が丁寧なプロセスを省いた

結論を市民に押しつけるものだと思えばスピード感ではなく、市民軽視の行政運営と言わざるを得ない。クリーンピア21の閉鎖についても、長年健康維持のために施設を利用され、突然の閉鎖発表に存続を希望する会を立ち上げられ短期間で5,000筆を超える署名活動まで行われた市民は、説明にいまだに誠意を全く感じていない。市長には市民の声を聞く力、考える力、伝える力を養い、高めることを要望する。

## 《安全・安心でいきいきとした生活の実現》より》

●**質疑** 自治会の担いと現状の課題についての認識は。

●**市長** 他の自治体の取組などを参考にしていきながら、町会運営を支えていく施策を模索していきたい。

●**要望** 住民自治と交流を醸成し、自治会内での互いの顔と名前が分かる関係を目指し、自治会の活性化による豊かな市民生活の実現を要望する。

## 《次世代育成》より》

●**質疑** 新設することも家庭センターは中身が大切。明石市では離婚後取り決めた養育費が受け取れない家庭に市が立替払いを行い、相手側に回収を行っている。見習ってもらいたい。

●**市長** 養育費に関する公正証書等の作成促進補助金事業、養育費の保証促進補助金事業を行っている。

●**要望** 明石市の先進事例の様に本当に困っている親子を救う施策を採用するよう要望。

●**質疑** 施政方針に学校規模の適正化とあるが小中学校の統廃合を指すのか。

●**市長** 先日開催された第3回教育改革審議会においても、意見の中で統廃合に言及された委員もいたと聞く。

●**要望** 初めて公式に学校統廃合と

いう言葉がでた。教育改革審議会の設立目的は幼・保園の次の統廃合先として小・中学校を見据えたものであることは容易に推察できる。統廃合自体を全否定しないが、ほかに方法はないのか、またどうしても廃校を検討せねばならない場合、速やかに校区自治会、各種団体に議論の中に入ってもらう、住民周知と理解を前提に計画を進めるべき。小学校の存在の有無は地域の未来に大きく関わることなので強く要望する。

## 《未来につなぐ選ばれる》

●**質疑** 羽曳野の未来創生より》  
住みたい住み続けたいまちの条件は何と考えるか。率直に。

●**市長** 本市の特性を生かし、さらに魅力を高めていくことで、日常生活における豊かさを実感できるまちをつくっていくことが必要と考える。

●**要望** もう少し市長としての思いを聞きたかった。私は今生きる市民の幸福を追求することこそが、まちの未来をつくることに直結すると考える。

●**市長** 羽曳野市に住んでよかったと心から思い、我がまちの自慢を熱く語る市民の姿こそが地域の魅力。市民満足度、幸福度を磨き上げる作業に徹底すれば、まちは光り輝き、光を求めてそこに人はやってくるかと考える。

●**質疑** 東地区の人口減少率が西地区と比較し高いが、どう捉えているか。

●**市長** 顕著と思われるほどの差は生じていない。現時点は市全体の課題。

●**要望** 顕著と言われるほどではないというが、東地区の人口は西地区と比較し約1万2,000人少ないにもかかわらず、減少人口数は西地区より多い。この兆しを敏感に感じてほしい。大したことではないと考えず、変化の兆しをとらえ、取り返しがつかなくなるまでに手当てをする気付きの姿勢を求める。

●**質疑** 都市計画マスタープラン改定

において、7地区の生活環境工コシステム(持続的共存)を意識しているか。

●**市長** 都市計画マスタープランに位置づけるべきものには含まれない。

●**要望** 本プランに位置づけるものではないとの答弁だが、都市計画マスタープランには地域別まちづくり方針という項があり、7地区における課題や地域の将来像に大きくウエートが置かれていることを市長は認識していただきたい。

●**質疑** ふるさと納税制度の市外からの寄附総額と、羽曳野市に納税されるはずがふるさと納税制度によって市民が他市町村へ納税した金額の差引きは。

●**市長** 昨年度寄附金額は約1億2,700万円、当市の市民税控除額は約2億6,000万円あり、さらなる寄附額獲得の努力を尽くさなければならぬと認識している。

●**要望** 市外に流出した市民税と、ふるさと納税寄附額の差引きは2対1であり、また返礼品や中間業者へのマージンなど経費(約6,000万円)を差し引けば依然として厳しい状況下にある。収支改善に向けた取り組みを要望する。

《主要な施策》より》

●**質疑** 全国自治体間で罹災者の受入れ合いができる機能を備える「庁舎機能を有する防災施設」の思想で新庁舎計画にチャレンジする考えはないか。

●**市長** 庁舎は防災対策本部を有することから罹災者受入れはしないが、自治体間連携は可能な限り行いたい。

●**要望** 阪神・淡路大震災以降、列島では大地震が頻発している。いつ、どこで大震災が起こってもおかしくない現在において、新庁舎にはより高い防災機能が求められる。どこよりも先進的な防災思想を持つ計画を期待する。

## 金銅宏親（市民クラブ）



《快適でうるおいのある

住みよいまち》より》

●**質疑** 市長が考える生活基盤である道路の計画的舗装工事とは。

●**市長** 道路の交通量、公共施設の配置状況、防災性の指標等、道路の重要性和道路のひび割れの損傷状況を総合的に勘案しその優先順位を定め、舗装維持管理計画の作成の上、その計画に基づき舗装工事を行っていく。

●**要望** まだまだ傷んだ道路が多く存在している。生活基盤である道路環境を適切に維持していくためにも、今後も継続的に予算計上を行い、市民の皆様が安全にまた快適に道路を使用出来る様要望する。

《地域がつながり

安全で心安らぐまち》より》

●**質疑** 高齢者や障害者等の避難行動要支援者が災害発生時に円滑な避難支援ができるよう、一人一人に応じた個別避難計画とは。

●**市長** 個別避難計画とは、要支援者お一人お一人の状況に合わせて、災害が発生したときに誰が支援をして、どこに避難をするのか、避難するときなどのような配慮が必要になるのかなどを記載した避難行動計画のこと。

●**要望** 高齢者や障害者等の避難行動要支援者が災害発生時に円滑な避難が

できるよう、一人一人に応じた個別避難計画は大変重要だ。災害発生時に一人でも多くの避難行動要支援者を守るように強く要望する。

《ともに支え合い

健やかに暮らせるまち》より》

●**質疑** 通所型サービスC事業（短期集中予防サービス）が今までは、市内に1か所だったのを今回の東園域で増やすこととなった理由と将来の予定は。

●**市長** 健康寿命の延伸につながる施策として、市内1か所で実施してきたが、自立支援型ケアプランを重点的に進めたことで介護予防の効果が現れ、利用者が増加していることから、令和6年度に、東園域に2か所目の事業所を開設する。将来的には、中園域にも開設をし、全ての日常生活圏域において事業展開をしていきたい。

●**要望** この事業を多くの高齢者に知ってもらい、住み慣れた地域でいつまでも元気な生活をしていただくためにもこの事業の充実を要望する。

《未来に羽ばたく

子ども・若者を育むまち》より》

●**質疑** 小児神経専門医による5歳児健診を実施しようとした経緯と具体的な実施方法は。

●**市長** 現在、多くの市町村では、福祉保健法に基づき、小児科医による3歳6か月児健診以降、就学時健診まで健診が行われていない状況、小児神経専門医が市内保育施設を巡回型による健診の実施は府内において前例がなく、初の取組となり、教育・保育施設と学校の連携、入学後の円滑な支援や悩みを抱える保護者の不安軽減

につながり、未来に羽ばたく子ども

たちを育むものと認識をしている。

●**要望** 乳幼児健診に5歳児を加え、府内の初の取組として、小児神経専門医による健康診査の実施についての要望は、子どもさんを持つ保護者の悩みは計り知れないぐらい多様化している。今回の取組は、子どもが日頃から生活をしている様子を各分野の専門家が向いて観察し、健診をするこのこと、大変すばらしい事業だと思う。

大切な子どもさんへの保護者の悩みを払拭し、保護者が安心して子育てができるように、専門家や各部署との連携を密にして、就学前だけじゃなく、小学校でもこの事業の結果が生かされるよう、充実した事業になることを強く要望する。

《魅力発見 賑わいと創造に

あふれるまち》より》

●**質疑** 地域計画の内容と新規就農者育成総合対策就農準備資金の助成事業の内容は。

●**市長** 地域ごとの農地の効率のかつ総合的な利用に関する目標を共有することで、農地活用の可能性を広げ、遊休農地の解消や担い手の確保育成につなげて行く。今までは、新規就農時の開始資金の支援に取り組んできた。令和6年度は、新たに就農に向けて必要な技術等研修期間中の研修生に資金面で支援をする就農準備資金を助成する。

●**要望** 一人でも多くの若者に新規就農者として活躍していただき、当市の農業発展の救世主となつていただけるよう、広くこの助成制度の周知を要望する。

《歴史・文化が息づき

心身ともに躍動するまち》より》

●**質疑** 犯罪被害者等支援条例の条例制定に至った経緯と市長の思いは。

●**市長** 近年、様々な犯罪が後を絶たず犯罪等による直接的な被害にとどまらずその後も副次的な被害に苦しめられることも少なくない、住民に最も身近な存在である基礎自治体としても、市民が安心して暮らすことができる地域社会の実現に向けて犯罪被害者等の視点に立った施策を講じていく。犯罪被害に遭われた方やそのご遺族等に対し、しっかりと寄り添った施策を展開して行く。

●**要望** 市民の皆様が安心して暮らせる地域社会の実現と犯罪被害に遭われた方やその関係者に寄り添った条例が策定されることを期待する。

《市民とともに築く

自立したまち》より》

●**質疑** 新たな行財政改革大綱の柱として、業務、組織、財政改革を挙げられているが、今回の主な取組は何か。

●**市長** 主な取組として業務のDX化を推し進め、市民の利便性の向上、業務の効率化を実施し、柔軟で最適な事業の展開、企業版ふるさと納税、ネーミングライツなどに取り組み予定、人口減少、少子・高齢化の中、効率的で安定的な行財政運営を継続させ、社会情勢や変化する市民ニーズに対応していくための行財政改革を進めて行く。

●**要望** 今後さらなる人口減少、少子・高齢化の進行が予想される。当然、当市の税収も減少する。このことが市民サービスの低下につながることは決してあってはいけない。デジタル技術の効率的な、効果的な活用、また民間活力も見据えた新たな財源確保等、これからの羽曳野市の未来創生に向けた改革に取り組んでいただけるよう強く要望する。

## 沼元彩佳（大阪維新の会）



## 《はじめに》より》

●**質疑** 庁舎は昭和45年1月に完成してから50年が過ぎ、老朽化が進んでいる。平成29年から時限措置された市町村役場機能緊急保全事業債があったが、前市政にて事業着手に至らず先送りされてきた。新庁舎の整備を前へ進めると判断した理由について問う。

●**市長** 平成25年に実施の耐震診断で、震度6強で倒壊又は崩壊する危険性があるが対策がされていなかった。市民の命、財産、また職員の命を守るために急務であると判断した。

●**要望** 厳しい財政状況であるが、コストの削減を行いつつ、市民の安全安心を確保し、住民サービスを高められるよう事業推進することを要望する。

《子どもの笑顔あふれる 次世代育成》より》

●**質疑** これまで外国語学習の推進やチーム担任制の導入等、教育発展に資する様々な提案や提言をしてきた。令和6年度の新たな教育施策について問う。

●**市長** 教育委員会では、コミュニティ・スクールの導入、小学校教科担任制の推進などが計画されている。令和6年度の教育予算も手を緩めることなく、子ども達の生きる力を最大限に伸ばすべく、教育委員会をしっかり支援していく。

●**要望** 子ども達のために創意工夫を重ね、より良い教育環境の構築に努めることを要望する。

《未来につなぐ選ばれる 羽曳野の未来創生》より》

羽曳野の未来創生 より》

●**質疑** 施政方針にある『まちの豊かさ』とはどのようなことが、市長の考えについて問う。

●**市長** まちの豊かさは、地域や住民の魅力や活力の現れであり、地域全体が元気になるためには広域的な協力が必要である。大阪商工会議所の提言であるグレートミナミを参考に、地域の魅力創出や活性化に繋がる取組みを進めるため、多様な人材によるアイデアや知見を生かして調査研究に取り組んでいく。

●**要望** 当市のポテンシャルを最大限生かし、新たなイノベーション創出ができる官民連携と戦略的なシティプロモーションの実施、また国籍問わず、当市に住む全ての人々の持つ魅力や活力を支援できる環境整備を要望する。

《快適でうるおいのある 住みよいまち》より》

●**質疑** 次期都市計画マスタープランは、令和8年度が始期、令和18年後以降の長期的な視点でまちのあるべき姿やその実現に向け方向性を示すもの。急激な人口減少に対する持続可能なまちづくりについて市長の考えを問う。

●**市長** 都市計画マスタープランの改定は、人口や世帯の動向と将来予測に基づき、社会情勢を考慮して将来のまちの方向性を定めるもの。今後の急激な人口減少に備えて、都市機能の集約や維持管理コスト削減などを検討し、市民サービス水準を下げずに持続可能なまちづくりを目指した計画を進める。

●**要望** 都市機能を集約するなど、行政コストの削減と効率性の向上を上手く活用したまちづくりを計画し、市民にとって有益になるようなまちづくりの推進を要望する。

《地域がつながり 安全で心安らぐまち》より》

●**質疑** 防災において市町村の役割は非常に大きく、市民の命と暮らし、

財産を守るためにも災害に強いまちづくりに向けた市長の考え、また行政としての役割について問う。

●**市長** 危機管理を重要視し、部署を独立させるなどの組織改編を実施。防災活動として、公共施設の耐震化や避難所機能の強化を推進し、令和6年度は大型防災倉庫の実施設計を進める。また災害時の連携強化を図り、職員の災害への対応能力の向上にも取り組んでいる。自助、共助、公助を基本とし、引き続き防災啓発や訓練へのサポート等を進めていく。

●**要望** 予測不能な災害に対し、市民の安心安全に努め、地域での自助、共助、行政の公助、それぞれが役割を発揮できるよう組織の醸成に努めることを要望する。

《未来に羽ばたく 子ども・若者を育むまち》より》

●**質疑** 厳しい財政状況の中、中学校全員喫食開始に向けた市長の考えについて問う。

●**市長** 中学校給食を全員喫食にすることは、子どもたちに栄養バランスの良い食事を提供するだけでなく、良い食習慣を身に付けるためにも重要であり、令和7年9月より全員喫食開始を目指し取組を進める。全ての子ども達が夢や希望を持ち、必要な支援を受けることが出来るよう全力を尽くしていく。

●**要望** 事業の選択と集中の中で、中学校給食の全員喫食化を英断されたことを私たち会派は強く支持している。子どもたちが安心して食せる環境構築に努めることを要望する。

《魅力発見 賑わいと創造に あふれるまち》より》

●**質疑** 当市の賑わい創出に繋がる観光施策、貴重な歴史と文化の在り方と今後について市長の考えを問う。

●**市長** 競い合う都市間競争から、共に創る都市間共創の観光施策へモデル

チェンジを図る必要がある。大阪はびきの観光局と協働しながら、南河内地域、大阪全体を牽引する気概を持ち、観光施策に取組んでいく。本市は重要な文化遺産が随所に存在し、暮らしに溶け込んでいる日常を本市の個性として確立するためにも、文化遺産の保全と活用を考えていく。また市民と行政が一体となり取組むことで、シビックプライドの醸成にも繋がると考えている。

●**要望** グレートミナミ構想の南大阪それぞれの地域をブランドディング化することは重要と考える。今後、大阪はびきの観光局との観光施策の推進と、歴史・文化の価値を後世に継承し、その魅力を市内外へと発信し、歴史・文化の醸成を深めることを要望する。

《羽曳野の未来創生に向けて》

●**質疑** 今年7月に市長選挙があるが、市長の決意を問う。

●**市長** 市政運営において、市民の幸福度を高めていくこと、そのために市民の皆さんとの協働を大切に、誇れるまち羽曳野、日々の生活から豊かさが実感できるまちとして、引き続き『羽曳野の未来創生に向けて』かじを取るため、7月の市長選挙にチャレンジする。

●**意見** 3年半の市政運営を通して、羽曳野市を強く生まれ変わらせたという市長の気持ちを確認することができた。大阪維新の会は、子育て世代に元気がなければ未来社会を維持することはできないと考えているからこそ、将来世代にツケを残さない政治や行政の在り方を強く訴えてきた。今後も、大阪維新の会羽曳野市議団は、山入端市長の考え方や理念の下、羽曳野市の発展のため、また次世代のために、議員として研鑽に励むことに全力を尽くしていく。

## 外園康裕（公明党）



## 《通報システムについて》

●**質疑** 平成30年12月議会で通報アプリ導入の考えをお尋ねした。本システムの運用方法、道路以外にも運用範囲を広げるのかを聞く。

●**市長** 現場の状況写真・位置情報・詳細内容等を投稿していただくこと、速やかな対応を行うことが目的。各課で対応可能な業務も視野に入れる。

●**要望** 時間がかかる場合や対応ができない場合は通報者に連絡を入れるべく、検討をお願いする。

## 《ボールパークについて》

●**質疑** 島泉まちかどあそび広場の利用状況、今後の具体的な設置場所の候補地は決まっているのかを聞く。

●**市長** 日曜、祝日、平日の下校時間後は恒常的に利用していただいている。用地を新たに確保することは容易でない。市有地を有効に活用するなど候補地の選定を行っている。

●**要望** 児童公園で少し広目のところもこの候補地に入れていただきたい。

●**質疑** 《中学生対象の体験型防災訓練について》令和3年12月議会で、中学生を対象とした「ジュニア防災リーダー」育成講座の実施を要望した。本訓練内容や今後の取組を聞く。

●**市長** 2年前より消防署員の協力も得ながら人命救助等の訓練を行っている。実施校を増やし、さらに内容の充実を図ってまいりたい。

●**要望** 中学生たちに広く訓練の場を設けていただき、地域の防災力として大きな力を発揮してくれることを念願する。

## 《災害時応援協定について》

●**質疑** 当市の協定の現状、今後の姿勢について聞く。

●**市長** 官公庁と15種類の協定、民間事業者等とは食料やエネルギーの提供、輸送、災害復旧をはじめ多分野において74社と締結。今後、締結している民間事業者等と平時から連携を密にし、防災体制の強化に努めていく。

●**要望** 行政、民間にかかわらず、信頼関係をより強固にしていきたい。

## 《個別避難計画について》

●**質疑** 2021年5月の改正災害対策基本法で個別避難計画の作成が自治体の努力義務となった。当市ではどういった内容となるのかを聞く。

●**市長** 避難行動要支援者台帳登録の方を中心に取組を進めている。

●**要望** 台帳には4,000名近く登録されており、計画策定作業は大変と推察できるが、町会や民生委員さんのお声もよく聞き進めていただきたい。《重層的支援整備》

## 《移行準備事業について》

●**質疑** 重層的支援事業の内容、移行準備事業をどう進めていくのかを聞く。

●**市長** 相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援の3つの支援を一体的に進め、発見・つながり・社会参加に向けた寄り添いまでを包括的に支援する体制整備を目指す。庁内実務者及び市社協も参加する実務者調整会議を開催し、連携体制の強化を図っている。

●**要望** 全庁挙げての取組となる。必ず意味のある事業にしていきたい。

たい。民間の力も視野に入れていただきたい。

## 《家計改善事業について》

●**質疑** 内容、対象となる方、事業規模、スケジュールなどを聞く。

●**市長** 家計に課題を抱える方からの相談に応じ、指導等を行うことで相談者自身が家計を管理する力を高め、早期に生活が再生されることを目的とした事業。生活保護受給者、社会福祉協議会・生活困窮者自立相談の窓口に来られた方のうち、家計の改善が必要と思われる方を対象に、令和6年度より実施する。

●**要望** 相談に来て説明を受けても、本人がやってみようと感じられないなら前には進まない。本人のやる気を引き出すような関わり方が重要。窓口で直接市民と接する職員の方の窓口力とても言いつべき総合力の向上を望む。

## 《対話支援機器について》

●**質疑** バリアフリーの観点からも重要な取組。どういう機器か、予算はどうか、活用の予定などを聞く。

●**市長** 話す側から聞こえの改善に歩み寄るという発想から生まれた機器で、インセンティブ交付金を活用して3台購入する予定。地域包括支援課窓口で常設し、介護予防教室や認知症予防の講演などで利用を予定している。

●**要望** 市民に喜んでもらえるなら機器を増やすことも視野に入れるべき。聞こえに悩む方以外についてもSDGsの理念に則り、日頃の作業環境を見直すことも願う。

## 《居宅訪問（アウトリーチ）型支援について》

●**質疑** どういう支援か、誰が訪問するのか、訪問の頻度は、必要な予算は、などを聞く。

●**市長** 助産師などの専門職が家庭を訪問し、状況に応じた具体的な育児指導を行う。妊婦1人当たり3回を上限に、自己負担なくサービスを提供するため、助産師への委託料を計上。

## 《子育て世帯訪問支援事業について》

●**質疑** 事業の内容、誰が訪問するのか、必要な予算などを聞く。

●**市長** 支援を要する児童とその保護者、特定妊婦、さらにヤングケアラーに、家事、子どもの送迎、養育に関する援助や情報提供などを行う。NPO法人への委託料を計上している。

●**要望** 虐待リスク等の高まりを未然に防ぐための事業でもあり、心を込めた事業展開をお願いする。

## 《学校規模の適正化について》

●**質疑** 学校の統廃合とも受け取れるが、一概にそれありきで議論するのは早計。議論を進めていくそのスケジュールを聞く。

●**市長** 教育委員会が教育改革審議会に諮問し、まちづくりの視点も含めて、学識経験者、保護者等の意見も伺いながら議論をされている。およそ2年をかけて審議される予定と聞いている。

●**要望** 例えば子育て世代を当市に呼び込むような取組を行うなど、もともと議論がなされるべき。議論を深めていただくことをお願いしたい。よりよい羽曳野市にしていけるように、市議会公明党の議員団3名も精進してまいります。

## 《その他の質疑》

●**旧浅野家住宅について**

●**犯罪被害者等支援条例について**

●**オンライン申請・届出システムについて**